



月の光奉賛会

令和元年5月19日満月の日
対馬での御神事

令和元年6月17日満月の日

令和元年7月17日満月の日

< <http://tukinohikari.jp/housankai/index.html> >

参加費無料ですのでどなたでも参加できます。

(1) 日時 : 5 月 18 日 9 時 30 分から

場所 : 悠紀 (ゆき) 豆酩の多久頭魂神社の拝殿前
終了後 近くで直会と昼食会を行います。

直会の参加費は実費 (1000 円くらい)

(2) 日時 : 5 月 18 日 15 時から

場所 主基 (すき) 佐護の天神多久頭魂神社の拝殿前
終了後 近くで直会と昼食会を行います。

直会の参加費は実費 (1000 円くらい)

★御神事の主旨★

5 月 19 日 (日) は、新天皇陛下が御即位された最初の満月の日です。

私は、平成 7 年 (1995 年) の阪神淡路大震災以降、「月に光」という名称を掲げて、日本各地の神社を参拝してきました。日本各地の神社を参拝してみると、対馬が日本神話の源流になっているのが良く分ります。特に、大嘗祭で使われるお米を供出する悠紀 (ゆき) と主基 (すき) は必須で、対馬の多久頭魂神社 (厳原町豆酩) が悠紀 (ゆき) といわれたという伝承をもち、天神多久頭魂神社 (対馬市上県町佐護) が主基 (すき) と言われた伝承をもっています。

また、古代から近現代史にかけても、対馬の位置は特別です。

明治維新後の日本の命運を決した 1905 年の日露戦争の日本海海戦は、対馬沖でなされました。

豊臣秀吉が朝鮮出兵 (1592 年、1597 年) する時も拠点になりました。

元寇 (1274 年、1281 年) も、対馬の小茂田が戦場になりました。

さらに、白村江の戦い (663 年 10 月-天智 2 年 8 月) のときも、対馬の金田城が攻防の拠点になっていました。

御神事次第

- 一、 宮司様か主宰者の挨拶
- 一、 修祓
- 一、 宮司様の大祓祝詞奏上
- 一、 参列者のみなさまによる教育勅語奉唱
- 一、 玉串奉奠
- 一、 宮司様講話
- 一、 撤饌
- 次、 直会

月の光奉賛会 令和元年 5 月 7 日

神宮皇后の三韓征伐（200 年ごろ）のときも、対馬は拠点になっています。

また、歴史を神代の昔に遡れば、対馬は、伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの時に生まれた島で、別名を天之狭手依比売といいます。

神々を産み落とされる前に、伊邪那岐命と伊邪那美命が産み上げられた島です。

海幸彦・山幸彦で有名な彦火火出見尊の時代に、海宮があった島が対馬で、現在の海神神社が海宮の場所です。

私の受けている印象では、約 12,000 年前の地球の天変地異の時、天照皇大御神様は子ども（童）の姿をかりて対馬の竜良山（たてらさん）に降臨され、救世の活動をされてこられたのかもしれない。この時の伝承が、対馬に残る「天童」伝承です。

この「天童」伝承の淵源は、元来は天照皇大御神様のものなので、「天道（あめのみち）」伝承を伴っており、飛鳥奈良時代、天武天皇（684 年）から元正天皇（716 年）にかけて、空中飛翔の術を使って天皇陛下に仕えた「天道」法師の伝承の源になっていきました。

かくまでも深い位置にある対馬での御神事が求められていると思われましたので、昨年 12 月から準備をはじめ、ようやく対馬に行ける準備が整った次第です。

(3) 日時 : 5 月 19 日 10 時から

場所 : 峰町木坂の海神神社の拝殿前

終了後 近くで直会と昼食会を行います。

直会の参加費は実費（1000 円くらい）

(4) 日時 : 5 月 19 日 15 時から

場所 豊玉町仁位の和多都美神社の拝殿前

終了後 近くで直会と昼食会を行います。

直会の参加費は実費（1000 円くらい）

対馬に不案内なので、地元の方が参加してくださると幸いです。

主宰させていただく私は 5 月 16 日に対馬に入って、5 月 20 日の便で東京に戻ります。

月の光奉賛会 代表 成田亨

〒177-0033 東京都練馬区高野台 1-23-20 ガーデンコート高野台 805

電話 080-9175-4666

申込みフォーム <http://www.tukinohikari.jp/housankai/contact/index.html>

メール naritatoru@gmail.com